

# 月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・(株)官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会  
〒501-3246  
関市緑ヶ丘2-5-78  
TEL：0120-337-301  
FAX：0575-24-5733

## 老人ホーム看取り率の増加 病院看取り率がついに 70%割る

2020年の人口動態調査によると、**病院と診療所を合わせた医療施設での死者比率は69.9%となり、遂に70%を割った。**在宅医療が進む海外ではオランダが30%を割っており、欧州諸国は50%前後が多い。

一方、自宅死はこの20年ほど13%前後だったが、昨年は15.7%に伸びた。コロナ禍での面会制限のため入院の敬遠や早期退院で自宅死が高まったようだ。

そして**老人ホームでの死亡はこの20年で大きく伸びた。00年の1.9%が20年には9.2%となった。**介護保険制度の浸透で入居への抵抗感が薄れニーズが広がった。競争により有料老人ホームの入居費低廉化も進んだ。特養などと同様に「看取り加算」が報酬に加わり、事業者も前向きになった。

特養の個室化が進んで身の回り品を持ち込め、施設が「第二の自宅」になりつつある。老人ホーム死の増加が病院死の漸減をけん引した。「最期は自宅で」と、70%近い国民が各種のアンケート調査で答えている。老人ホームが「第二の自宅」であれば、自宅死と老人ホーム死を合わせて「在宅死」とみなしていいだろう。

## 看取り特化の訪問看護 普及に向けFC展開へ

楓の風(横浜市)は2021年10月より、看取り特化型の訪問看護フランチャイズ事業を展開している。

東京、神奈川エリアで在宅療養支援診療所(訪問診療)5拠点、訪問看護ステーション17拠点、デイサービス14拠点を運営する同社が、在宅での看取り経験と訪問看護事業所経営のノウハウを活用し、地域に貢献する事業所の立ち上げをサポートしていく。

楓の風が自社で運営する17カ所の訪問看護事業では、年間300~400件、延べ3000件を超える在宅看取りの実績を有する。

同社の下手将裕取締役は、「**在宅での看取りニーズは今後いっそう高まっていく。看取り難民を出さないために、普及を図るべくFC展開に着手した**」とその経緯を語る。

看取り率のデータや看取り特化の訪問看護事業者の出現などを見るに、今後、看取りなどの在宅医療のサービスのニーズが高まっていくのは明らかである。老人ホーム+訪問看護のモデルという新たなモデルも全国の事業者で注目が集まっている。新たな老人ホームモデルについては弊社にご相談を。